TTC 山行実施記録表

2010年11月12 日 報告者:門間 信一

山行名	天子山塊縦走「天子・長者・天狗・雲守山・雪見・毛無山・雨ヶ岳 [1330・1335, 8・1373・1574, 5・1605・1945, 5・1771, 7M 静岡 ・山梨県]
実施日	2010年 10 月23～24日 （土・日 ）
天候／参加人員	天候:晴れ・曇り・雨　　レベル: ★★　　参加人員: 4 名、実行4
ﾊﾟｰﾃｨｽﾀｯﾌ	CL: SL: 会計: 救護・記録: 氏 名 削 除
参加メンバー	氏 名 削 除
費用 @7,800 円 TTCカンパ代 450 円	マイカー使用料 250km×@10＝2500円　ドライバー謝礼 @5, 000×2＝10,000 円 ガソリン代 250k／5k×125 円＝6,250 円　タクシー代 4,640 円　高速道路代 @1,000×2＝2,000 円 食材代 4,800 円　ガスボンベ代 560 円　TTCカンパ代 450 円　合計 31,200 円

実行コースタイム記録

厚木各所＝＝＝厚木IC＝＝＝富士IC＝＝＝白山神社（登山口）———805地点————富士見台————天子山頂————
4:30　5:00　5:43　6:24　6:45　7:48　7:55　9:05　9:15　9:30　9:35

長者ヶ岳————　1320m地点————天狗岳————鉄塔————湧水峠————1446m地点————雲守山——
10:22　10:35　11:3812:00　12:15　12:33　12:35　12:45　13:24　13:37　14:0714:17

雪見岳————天幕場
15:42　15:50　15:55

天幕場————　雪見岳————1600m地点————地蔵峠————山頂直下————毛無山————1875m地点
5:24　5:33　5:57　6:15　6:45　6:50　8:00　8:33　8:50　9:28　9:32

———雨ヶ岳————1360m地点————970m地点（下山口）———富士IC———中井IC———厚木
10:35　10:50　11:34　11:45　12:42　15:53　17:01　18:30

コースの概要、特記事項、反省事項等

(10/23)

富士山の西、田貫湖から本栖湖まで幾つものピークが連なる連山がある。それが天子山塊である。早朝厚木を出発して順調に登山口に着く。準備体操をして歩き出す。見事なまで手が入った杉林につけられた登山道で一寸驚く。道はゆったりした勾配で続きやがて広場に着く。ここに杉の木を切り根元部分をしゃれたイスに作ったものがあり最初の休憩をとる。ここからは林道かとおもう位道は広く分岐まで続く。

一変してここから急登になるが時折東に見事な富士山が現れたり、西に南アルプスが見えたりして疲れを癒してくれる。やがて平坦な広場に着く。富士見台付近である。昔京都から嫁いで来たお姫様がなくなった時この場所に一緒に埋めたようらく、宝石等をつらねた装身具から芽吹いたと言われる純白で風にゆれ風鈴のように下を向いて枝にぎっしりと咲くようらくツツジがあるという。いかにも天子ヶ岳らしい。

さらに緩やかな道を進むと天子ヶ岳山頂に着く。ここは周囲を樹林に覆われて景観はない。つぎなる長者ヶ岳をめざす。ここからは舞台変わって深山に入り込む。この山も「熊に注意」の看板を見かけ、いかにも居そうである。まだほとんど紅葉してないが山体はどっしりした感じである。樹林帯を抜けると山頂に飛び出す。ベンチが置かれた広場で一本立てる。ここは田貫湖から来る東海自然歩道との交点でもある。殆どの登山者は天子・長者ヶ岳でどちらかに下山するようであり、ここから更に北への縦走者は殆どいないようである

またまた景色変わってまるで南アルプスを思わせるような苔むした樹林帯である。先程話をしていたいかにも地元の登山者という人が見事なクリタケを取っているのを見て、Ｉ，Ｓさんが同行していたら狂喜？していたかもしれない！と思った次第である。この山は殆ど踏まれていないので自然のままでとても癒される。ここから天狗岳までは標高も変わらず歩きやすい。やがてここが？と思うようなところが天狗岳であった。道筋に細い棒に山名が記され小さな岩に三角点らしきものがあるだけで思わず通り過ぎそうである。ここからさらに迷いそうな道を進むと鉄塔があり、真下に小屋がある変わった所に着く。

このあたりから幾分色づき始める。突然登山道の真ん中に黒い物体が現れる！触ってみるとまだやわらかい。まさしくごく最近の熊のフンである。思わず鳥肌が立つ。急ぎ足で雲守山に着くとホッとする。やれやれと思って歩いていくと今度は聳え立つ大きな木に５Ｍはあろうかと思われる真新しい皮を裂かれた部分が現れ度肝をぬかれる。皮の両側には鋭い爪の跡があり「こんな爪で叩かれたらひとたまりもないよな～」と思う。一旦下り登り返すと猪之頭につき、ここから見た富士山に力づけられた感じがした。笹の多い道を左折しよう

とするとそこが雪見岳であった。竹やぶを下狩りしただけで狭く切り株が多くとてもテン場にならないので引き返しテン場を探しここで一夜を明かすこことなった。今夜はチゲ鍋である。よくもこんなにも！と思うほど具をたくさん入れ、まずは乾杯！よく食べよく飲んで爆眠する。

（10/24）

4 時起床。あたりは真っ暗である。食事、片付けを終え準備体操をしていざ出発！雪見岳をやり過ごし毛無岳を目指す。天気は曇りで富士山も南アルプスも見えない。ここから一直線のやせ尾根の下りが始まる。かなりの緊張感を強いられながらも鞍部に着く。ここが地蔵峠である。東に下れば「道の駅朝霧高原」に続く。ここより登り返す毛無山ゾーンは今までと打って変わり秋山になり、紅葉地帯である。天子山塊は各ピーク毎にそれぞれの顔を持っている。天子岳は綺麗に清められ不思議な伝説を持つたおやかな山、長者ヶ岳はブナに覆われた深山、天狗岳から雪見岳は熊の生態が身近に感じられるようなワイドな山。さて毛無山はどんな顔を見せてくれるのか心ときめく。遠望するとどっしりと構えて頼もしい。秋の装いは進むほど期待を裏切らず益々色濃くなり、急なのぼりで疲れた体を癒してくれるようだ。丸山を経てやっと山頂に着く。この山は天子山塊の最高峰であり、この山系は甲・駿の国境をなす山脈でもある。昔から八ヶ国の展望台といわれたそうで、山頂からは東に裾野を長く引いた富士山の全貌をさえぎるものなく見られ、富士山の写真家岡田紅陽が富士山を観望するのに最も適した場所と言わしめた。生憎天気は急変し雨、風強くなり早々に少し下った岩陰に非難して雨具を取り出す。熊笹につけられた道から脇に入るとここが「天子山塊最高峰」との案内があり、どうやら本当らしいが景観も無く富士の存在の大きさを感じさせる。

やがて大見岳につく。ここからは一気に下りである。とはいえ足場が悪く笹の急斜面でありすこぶる歩きにくい。やっとの事で雨ヶ岳に着く。更に下ると端足峠に着く。分岐を右に戻るように下山すると東海自然歩道に交差しＡ沢貯水池につく。平坦な道を歩きフジパノラマラインの根原につきタクシーを呼び登山口へと戻り、リーダー行きつけの富士宮焼そば店で祝杯を上げ一路厚木へと帰る。

感想 SM

天子山塊は静かで獣の存在を強く感じる山です。特に熊の縄張りに踏み込んだ人間に対する威嚇の念を所どころに感じさせてくれる所だった。動物の餌になるような木の実や、植物が豊富にあるのではないでしょうか。特に茸は沢山あった。残念なことに解らないので採りませんでしたが。

テント場は雪見岳以外であれば、いたるところに適地がありますので安心です。一番悩むのが、アプローチと帰りの交通手段ですね、今回はマイカー＆タクシーですがもっといい方法があると思います。エスケープルートもいたるところにあるので安心です。ぜひ皆さんもチャレンジしてみてはどうでしょうか。

今回の充実した山行が成功したのは、仲間の皆さんのおかげです。ありがとうございました。